（別紙4）　　2024 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2291100085		
法人名	株式会社コスモスケアサービス		
事業所名	グループホームこすもす原		
所在地	沼津市原1528－1		
自己評価作成日	令和7年　2月　18日	評価結果市町村受理日	令和7年　4月　25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1－70　静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和7年　3月　26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

看取りの対応も行っており、その方が最期までその人らしく一日一日を有意義に過ごして頂けるよう職員全員で支援させて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

施設の近くには、スーパーなど多くの店舗があり、住居としてはとても立地の良いところである。平屋の建物で、二つのユニットとデイサービスがあり、職員は自由に行き来ができる。ギター演奏やお話が上手な方など、職員の力が様々な形で発揮され、利用者との関係構築に良い作用がある。看取りのケアも行われており、医療職も配置され往診医のサポートもしっかり行われていて心強い。看取り期だった利用者が少し改善した事例もある。介護の質にこだわり、アセスメントやモニタリングも確実に行われ、ICT化もされ専門性が発揮される仕組みとなっている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「三つの誓い」を理念4として、玄関と事務所に 掲示し共有出来るようにしている。	理念である「3つの誓い」を、職員の入職時に説明をしている。理念に沿った行動目標を示してもらい方向性を明らかにしている。また、職員の評価項目としており、共有する機会となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域でのイベントがあった時に参加したりしている。	地域の夏祭りへ参加している。自治会にも加入しており、近くのスーパーに買い物に行くなど、地域との付き合いを大切にし交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括が主催している家族懇談会に出席し情報を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	他グループホームからの情報を聞きボランティアなど来て頂くように努めている。	運営推進会議では、ホームにおける利用者の様子を伝えている。民生委員等から、地域のボランティア等の情報提供や、意見交換などが行われている。	運営推進会議の議事録の中に参加者の氏名、協議した内容や出された意見などの明記がない。会議中の意見は貴重なものであるため改善に期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点があれば連絡をいたり、運営推進会議にも出席して頂いている。	沼津市の担当者とは、事故報告や、入退去に関する情報を共有している。担当者も運営推進会議や地域会議などに参画し、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を中心に研修を開催し、意識の向上に努めている。	年間2回以上の研修を位置付け、スピーチロックに関する勉強などを行っている。看取り期の利用者に対しても、苦痛とならないよう支援方法の検討を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修を実施し意識づけをし、職員同士での声掛け出来るよう努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所としての事例は無いが、研修の機会を設けるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文面と口頭での説明を行ってから署名を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時やなかな来れない家族などは電話やケアプランの交付時などに確認している。	家族等からの意見は、面会時に多く寄せられる。歩行能力の低下を心配した家族からの意見を職員に伝えながら、ADL（日常生活動作）の低下防止など、支援の中で反映させた例などがある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員との個人面談を実施し聞き取りをする機会を設けている。	職員面談等年に2回以上行っている。終了時間の見直しの具体的意見や物品を揃えてほしいなど提案等もあり、職員の意見が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務態度や貢献度を部長へ報告し、給与のアップや寸志という形で評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や講演会などの案内が来たら、職員へ周知し受け入れる体制を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームの運営推進会議やイベントに参加している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にこまめにコミュニケーションをとり信頼関係を構築していけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の契約の時などに聞き取りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に困っている事や要望を聞き、職員で 共有している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	過剰な介助に気を付け残存機能を生かすようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナやインフルエンザなど感染状況に合わせて面会・外出を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来訪されたら面会して頂いている。	感染症への配慮から友人の面会や親せきの訪問は、玄関先や居室となっている。ご家族へ面会者の確認を行い、繋がりを理解する姿勢がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の相性やADLを見ながら席の配置を決めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	実例は無いが、要望があった時には積極的に対応はしていく。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中で聞いたり、意思疎通が困難な利用者様については、職員からも聞き取りをしている。	入居後1週間はセンター方式の24時間シートを使用し、本人の行動や発言などを記録している。月に1回以上のミーティングの際に情報共有され、認知症の特性を理解した思いや意向の把握となっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や日常生活の中で本人や家族から聞き取りをするよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムやADLの状態を職員同士で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月にユニット会議にて、職員に聞き取りをし プランに反映させている。	おおよそ6か月ごとの短期目標満了時期に合わせ、ユニット会議時にカンファレンスを実施している。管理者を含めた全職種の参加のもと介護計画を話し合い、モニタリングはケアマネジャーが担当している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌に日々の様子の変化を記入し職員同士で共有し、ユニット会議の場で見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個浴対応が厳しくなってきた利用者様に、訪問入浴の提案をさせていただいたりしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物に出掛けたり、地域のイベントに参加するよう取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	２４時間のオンコール体制を整えている。	2回/月の往診がある。希望すれば、入居前のかかりつけ医を継続することが可能である。施設独自のアプリの利用により往診医との情報は、画像を含めタブレットで職員全員で共有し確認できる体制を取っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師を常駐しており、変化やケガがあった時にはすぐに対応出来るようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には施設看護師から看護サマリを提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族とかかりつけ医と連携を取りながら支援に取り組んでいる。	入居時に看取りの方針説明や、家族や本人の意向を確認している。今年度4名の看取りを行った実績がある。重度化や看取り期には医師からの説明が行われ、再度意向や方向性を確認している。看取り後は、支援方法などの振り返りを行い今後に繋げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を行い勉強はしているが、実際に動けるかは不安なところはある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練にて避難方法を確認している。	「地震・火災を想定した避難訓練」「炊き出し訓練」を実施し民生委員も参加している。建物は平屋の為、垂直避難は出来ないが水の侵入を防ぐ為の土嚢やベッドの高さを上げる等、水害の想定もしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を傷つけないように支援するよう努めいる。	利用者は目上であることを意識し「チャン」付けで呼ばないよう配慮している。不適切な発言に気を付けており、気になる言葉はその場で管理者が注意している。トイレのドアは見守りが必要な時以外は閉めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定出来るような声掛けをしたりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先になりがちではあるが、利用者様一人一人のペースに合わせた支援を心がけるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧水を使用したり、要望があった時には対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の彩を気を付けたり、食器を拭いて頂いたりしている。	昼・夜は担当のスタッフが調理している。AIを参考にしバランスや彩りよいメニュー作りをし、リクエストにも対応している。季節ごとの行事食や誕生日メニューなど楽しく食べてもらえるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理スタッフを配置し、バランスには気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔状態に合わせた口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を使い時間誘導している。	水分摂取表と一体になった排泄チェック表を使用し、本人のペースと時間を見ながら誘導している。センター方式の24時間シートを活用し、行動を分析しながら排泄の自立に役立てている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトや牛乳を提供したり歩行運動などを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本の時間は決めているが要望があった時には時間帯を変更している。	週に2～3回の入浴を実施している。入浴後の疲れなどを考慮し、午前中の入浴としている。1対1の介助を基本とし、職員との会話もゆっくりできるように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	使い慣れた寝具をお持ち頂いたり、ベットではなく布団での対応もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報を共有し変化があった時には看護師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時の時などに聞き取りをし、取り組んで頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや散歩、近くの飲食店に出掛けたりしている。	コロナ禍を経て、以前より外出の機会が減った経緯はあるが、散歩など可能な限り外気浴を行っている。希望を受けた場所へのドライブや、3～4ヶ月に一度は外食を企画している。季節行事の行先は職員が決めている。	感染症のリスク等を考え、外出の機会が減少している。感染症の状況や体調等の考慮は必要ではあるが、家族等の協力を得ながら、外出の機会が増えることを期待する。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設で管理させて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があった時には対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた雰囲気になるように気を付け、季節に合わせた飾りつけをしている。	居室は換気の為、窓を開けている。利用者の声が聞き取りやすいように、テレビの音は小さめに設定しており、間接照明を利用し落ち着いた空間作りや、照明は暖色を選び明るすぎないよう配慮している。掲示物は職員と共同して製作した作品が掲示されていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーでゆっくり過ごされたり、利用者様同士で歌を歌ったり、談笑されたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していた馴染みの物をお部屋に置いて頂いている。	荷物は家族と相談し搬入し、本人らしい部屋になる様に職員と利用者で「自分の部屋」作りをしている。家具や装飾品の配置などは、本人に任せる事により居心地の良さに繋げている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の扉に大きすぎない程度の名前のプレートを付けたり、トイレやお風呂場にもわかりやすくつけている。		